



令和7年2月28日
浦和明の星幼稚園
園長 栗田 亨

朝、日の出前は凍える寒さですが、陽が当たりだすとぼかぼかの陽気となります。2月のある日、例によってバスから降りてくる子に声を掛けていると、これまで一度も返事が返ってこない、下の名前を呼んでも通り過ぎるだけだった年少の男の子が、ニコニコの笑顔で「お早うございます」と返事をして、走って玄関に向かっていきました。みんなどこかにやる気スイッチを持っている！という話は聞いていましたが、突然スイッチが入るように子どもは成長するのだなあと感じました。

「まじ、すっげえ」「ほんとうに凄いわねえ」という声を遊戯室の入口で幾度もお聞きしました。作品展には、大勢の皆さんにご来園いただき誠に有難うございます。指定された時刻まで玄関先で或いは、各クラスの廊下や遊戯室前でお待ちいただく保護者の皆様の協力的な姿に改めて感服しました。お蔭様で作品展が無事にそして盛大に開催できたこと心より嬉しく、重ねて御礼申し上げます。

さて、過日のお誕生日会では、作品展後の教職員の動きについて次のような問題を出しました。①作品展の片付けをする。②みんなで作品を見合う。③専門の先生をお呼びしてみんなで作品を見合う。ほとんどの子が③と答え、大正解でした。尾間木小の丹後校長先生をお招きして、事前に作品を見ていただき、各クラスの平面作品、遊戯室の立体作品について、2時間半に渡ってご指導いただきました。その中で、「立って描いたり作ったりするとダイナミックな作品ができる。」とか、「小学校以降の技能は、担任は知っていた方がよいが、それを先取りする必要は全くなく、クレヨンで塗りつぶすとか、共同絵の具で色を付けるなど、今の力を思う存分発揮させてほしい。」というお話が心に残りました。お誕生日会に話を戻すと、2枚並べられた平面作品を見て気が付いたことを尋ねると、反応はありませんでした。ただ、クラス毎に鑑賞した時には、年長さんになると色々な色を使って、大きな紙に大きく描くようになることに気付く子もいたとのことでした。成長している本人には、今自分がどんな状況に在るのかなかなか分らないのかも知れません。4月「ママ」と泣いていた年少さんが、友達と手をつないで登園するようになるなど、大きく成長したこと、生まれ月が違いうように成長も人によって違うことを話し、どのように成長したか担任の先生とお話しするよう促しました。

本日行われたお別れ会は、お互いに成長を喜び、年中少さんに後を託し、年長さんに感謝の気持ちを表すというねらいでした。3学年全員が各クラスに分かれて縦割りで活動し、お楽しみ給食を食べました。一度集まって遊んだ経験があるため大きな混乱もなく、バス車内や預かり保育で縦割りで活動を経験している子もいて、異学年の交流で、仲良く成長したことを喜び合っているようでした。来年度、これが種になり、縦割りで遊びたいという思いが広がれば、苦勞して計画・実行した労に報いることになると思いました。

子どもは日々成長しています。しかし、子どもにとって、それは当たり前のことであり、とりわけ意識するものではないのかも知れません。だからこそ、節目節目の行事を祝うことに意味があるといえそうです。冒頭の男の子ですが、あれ以来ご挨拶は芳しくありません。何か言ったような日があったり、素通りしたり、それはまるで、春に向かって三寒四温を繰り返す気候に似ているなど感じます。子どもは自然の生き物であり、自然のように育つものかも知れません。そして、春は必ずやって来るとして、焦ることなく気長に大きく成長するように働きかけ続けようと思う日々です。